

平成18年度中学校区小中一貫教育実施報告書

(第 四) 中学校区

平成18年4月1日～平成19年2月20日

1 実践内容等

| 日 時 | 場 所 | 実践内容等 | 対 象 |
|----------------------------------|-------|---------------------------------|--------------------------------|
| 毎週木曜日(計10回) 4月～7月 | 北小学校 | 小3・4ピア・サポート訓練 | ・小3・4児童 |
| 毎週月曜日(計10回) 5月～9月 | 第四中学校 | 中1ピア・サポート訓練 | ・中1生徒 |
| 5月 8日(月) | 第四中学校 | 小中合同指導案検討(中1国語) | ・小中職員 ・市教委指導主事 |
| 5月14日(日) | 第四中学校 | 第32回体育大会 | ・小学生自主参加 |
| 5月17日(水) | 北小・四中 | 第1回 かけ橋の日 | ・小中職員 |
| 5月19日(金) | 第四中学校 | 府中市小中一貫教育検討会議 授業提案(中学 国語) | ・中1生徒 ・小中職員 |
| 5月29日(月) | 第四中学校 | NHK山口 ピア・サポート取材 | ・中1・2年生徒 |
| 5月31日(水) | 北小学校 | 小中合同研修 ピア・サポート訓練について | ・小3・4児童 ・大学助教授 |
| 6月 7日(水) | 第四中学校 | 小中交流授業研究(中2年数学) | ・小中職員 ・市教委指導主事 |
| 6月13日(火) | 第四中学校 | 福山市立走島小・中学校 来校 国研の指定について | ・中学校職員 |
| 6月14日(水) | 北小学校 | 小中交流授業研究(小1 算数) 問題解決的な学習について | ・小中職員 ・大学教授 |
| 6月19日(月) | 第四中学校 | インターナショナルデー(英語) 小6・中1異年齢交流 | ・小6・中1児童 生徒, 市内 ALT |
| 6月20日(火) | 北小・四中 | 第2回 かけ橋の日 | ・小中職員 |
| 6月27日(火) | 北小学校 | 小中合同事前研究(中1 理科) | ・小中職員 |
| 6月29日(木) 6月30日(金) 7月 3日(月) | 北小学校 | 教科専門性活用(体育) 小学校水泳指導 | ・小学校低中学年 ・小学校高学年 ・小学校低学年 |
| 7月 5日(水) | 第四中学校 | 小中合同授業研究(中1 理科) | ・小中職員 ・県教委指導主事 |
| 7月 6日(木) | 第四中学校 | 小中連携部活動体験 | ・小6児童 |

| 日 時 | 場 所 | 実践内容等 | 対 象 |
|-----------|-------|---------------------------|-------------------|
| 7月19日(水) | 北小学校 | 中2・小1国語異年齢交流 | ・中2・小1 児童生徒 |
| 8月4日(金) | 福山大学 | ピア・サポートアンケート分析 にかかわる研修 | ・小中職員 |
| 8月24日(木) | 北小学校 | 小中合同事前研究(小5 国語) | ・小中職員 |
| 8月30日(水) | 第四中学校 | 小中合同研修 ピア・サポート中間報告 | ・小中職員 ・大学助教授 |
| 9月6日(水) | 第四中学校 | 小中交流授業研究(中3 社会) | ・小中職員 ・大学教授 |
| 9月13日(水) | 北小学校 | 小中合同授業研究(小5 国語) | ・小中職員 ・市教委指導主事 |
| 9月14日(木) | 北小・四中 | 第3回 かけ橋の日 | ・小中職員 |
| 9月20日(水) | 第四中学校 | 小中交流授業研究(中1 体育) | ・小中職員 ・市教委指導主事 |
| 9月24日(日) | 北小学校 | 北小学校運動会 | ・中学生自主参加 |
| 10月4日(水) | 北小学校 | 静岡県総合教育センターより視察 | ・小中職員 |
| 10月12日(木) | 上下南小 | 第2回小中一貫教育検討会議 | ・小中職員 |
| 10月24日(火) | 北小学校 | 愛知県青木小より視察 | ・小中職員 |
| 11月22日(水) | 北小・四中 | 北小・四中研究発表会 | |
| 11月24日(金) | 第一中学校 | 府中市小中一貫研究大会 | |
| 11月29日(水) | 北小学校 | 理科部会授業提案(小4 理科) | ・小中職員 |
| 12月4日(月) | 北小学校 | 長崎県西彼杵郡長与町教委視察 | ・小中職員 |
| 1月17日(水) | 第四中学校 | 小中合同研修 H19年度カリキュラムについて | ・小中職員 |
| 1月24日(水) | 東小学校 | 第3回小中一貫教育検討会議 | ・小中職員 |
| 1月25日(木) | 北小学校 | 福岡県大川市小学校教頭会視察 | ・小中職員 |
| 2月14日(水) | 第四中学校 | 小中交流授業研究(中2 音楽) | ・中学校職員 |

については小中合同研修

第四中学校区小中一貫教育検討会議企画委員会 月2回の実施

第四中学校区小中一貫教育検討会議事務局会 随時実施

小中兼務理科の取り組み 小3(週2時間),小4~小6(週3時間)実施

成 果

1 小中をつなぐ一貫性ある指導法の研究（問題解決的な学習の授業づくり）

- ・ 児童・生徒の思考力・表現力を育成するという共通の目標に向かい、同じベクトルで問題解決的な学習を軸とした授業研究を実施した。
- ・ 小中相互の授業観察、指導案検討を行う中で、目標を達成するための手だての工夫など、一緒に授業を作っていく視点で話し合いを深めることができた。
- ・ 小中合同の教材研究、指導案検討をする中で、学習課題の工夫、児童生徒の反応を想定しての学習展開など、中学校では問題解決的な学習の展開を意識した指導案の作成を試みることができた。
- ・ 「習得」「探究」の2サイクルに分けての取り組みを行うことによって、授業の中に問題解決的なプロセスを導入しやすくなった。
- ・ 仮説設定を意識した授業展開をする際、これまでの教師主導型の授業から生徒をゆさぶる課題設定、発問の重要性を確認することができ、授業改善の意識が高まった。
- ・ 生徒の思考場を増やし、自力解決する場の設定を意識して行うようになった。
- ・ 教科担任制でも、共通の視点を持った、研修・実践をする中で、相互指摘が出来、授業改善の方向が明らかにされてきた。

2 学びへの意欲を高める研究（ピア・サポート精神を生かした取り組み）

- ・ ピア・サポート訓練で培ったスキルを異年齢交流、学年縦割り活動など、日常生活の中で生かすことで、訓練を受けていない児童生徒のスキルも上げることができた。
- ・ 昨年までの大学生によるリーダーではなく、小・中職員によるピア・サポート訓練を実施することができた。また、福山大学での研修をふまえ、アンケート分析も小中職員により実施することができた。
- ・ ピア・サポート実践（ピア・サポート訓練を生かした日常への取り組み）の計画段階から「自分から他の人に働きかける」「自分は後輩にとって役に立つ」「手本が示せる」といったねらいを明確にした準備ができた。また、交流後の振りかえりの活動の中で、後輩からの反応を返してもらうことで、手応えとしての自信を感じさせることができた。
- ・ 下級生にとっては、「人と関わることは楽しい」「先輩のおかげで楽しかった」などの振りかえりに見られるように、人間関係を心地よく感じる気持ちやあこがれ意識を持たせることができた。またその振りかえりを返すことで「かかわりの中にいる自分を実感する喜び」を持たせることができた。

課 題

1 小中をつなぐ一貫性ある指導法の研究（問題解決的な学習の授業）

- ・ 「問題解決的な学習」の展開が難しい教科もあり、各教科で（学習課題の立て方、発問の工夫、板書計画など）どのように進めて行ったら良いかさらなる工夫と研究が必要である。
- ・ 問題解決的な学習を展開するには、日頃から基礎・基本をしっかり押さえ、定着

させる指導をしていかなければいけない。

- ・ 問題解決的な学習の展開には、自主学習との関連も考えていかなければならない。
- ・ 学年間のカリキュラムを考えた指導（既習内容）を意識的に行っていく。
- ・ 問題解決的な学習プロセスの共通認識はできても、特に中学校においては教科担任制なので、その学習内容や指導内容については論議が深まりにくい。
- ・ 「習得」「探求」の両者は連続性を持ち、相互に作用するものにとらえ、教科・単元を構造化していかななくてはならない。

2 学びへの意欲を高める研究（ピア・サポート精神を生かした取り組み）

- ・ ピア・サポートのスキルを意識した日常の指導を、小中ともに全職員で進めて行くことが大切である。
- ・ 自己効力感、自尊感情、社会性の数値は向上したが、固定した友人関係、固定した見方を解きほぐすまでにいたらず、日常生活への普遍化が必要である。
- ・ 児童、生徒の成長に合わせて振りかえりの視点を変えていくことが大切である。ねらいにそった自己評価と他者評価を行うことで、よりいっそう異年齢交流の教育的意味が深まると考える。
- ・ これまでの教育活動で毎年行っているものにこだわることなく、児童、生徒の発達および実態に照らして、その時期に必要と感じられる活動を効果的に仕組んでいく創造性が必要である。
- ・ 活用する力としてのピア・サポート活動をしくむことにより、自己効力感や社会性をさらに高め、生活に生きる力として育んでいきたい。

小中一貫教育をめざし小中合同研修を推進してきた。共同授業づくり、合同研修会、ピア・サポートへの取り組み、理科の乗り入れ授業、異年齢交流、かけ橋の取り組みなどを行うことで、子ども達を9年間のスパンで育てる小中の円滑な接続をめざしてきた。

本年度は特に共同での授業づくりをおこなったことが意義をなす。中学校教員は、小学校の細かい指導案作成における発問づくりや児童の反応を予測した綿密な展開の仕方とその丁寧さを学ぶことができた。一方小学校教員は、学習内容を生徒に習得させるための各教科の特性を生かした工夫や教科を超えた研究テーマ設定の難しさを知ることができた。互いの違いを知ることによって、それぞれの良さを見出すとともに課題や違和感を胸襟を開いて話す機会が増え、相互理解の一步へとつながり、小中の職員間の垣根が低くなったといえる。

小中一貫教育の中で、実施される授業の多くは、実際には、小学校・中学校において単独で進められるものである。しかし、そのひとつひとつの授業を細く合わせていく連続性を小中の教職員が自覚し、引き受けようとする時、単独の授業は一貫教育の思想によって支えられるものと捉える。

そのためには、小中の教職員が互いの授業を公開し合い、研修し合い、そこで蓄積される同僚生を研究体制の中に位置づけることが求められている。